

授業の心理学学習指導案

授業者 佐久間・中村・本田

1、題材名 記憶

2、ねらい 記憶のメカニズムと物事を記憶するために有効な方略を知り、復習の大切さに気づかせる。

3、授業の展開の視点

記憶には短期記憶と長期記憶があることを教え、記憶について感心を持たせる。次に忘却曲線を見せ、説明することによって、時間がたつにつれ、記憶する量が減っていくこと、また、その減っていく割合を教える（割合の値は、授業の最後にどれくらい暗記しているかの確認テストのときに使う）。また、この忘れる割合を少しでも小さくするための方法（リハーサル、体制化など）について説明する。授業の最後に、展開部分の忘却曲線を見せたときに教えた、記憶量についての割合をどれくらい覚えているか生徒に答えさせ、記憶は容易に失われるということを実感させる。そしてこの授業から、記憶はすぐに失われてしまうこと、記憶を定着させるために復習が大切ということをわからせこれからの学習の仕方に役立てていくように促す。

4、展開

時間	○学習内容	◇教師の支援・発問
導入 5分	○短期記憶と長期記憶について学ぶ	◇生徒の今までの経験（テスト勉強など）と照らし合わせながら、短期記憶と長期記憶の特徴を説明する。
展開 10分	○忘却曲線について知る ○効果的な記憶の方略について学ぶ	◇忘却曲線を示し、記憶が失われやすいことを説明する。 ◇説明と同時に、記憶が失われる割合を、板書する（リハーサルなどの効果的な方略を話しているときにさりげなく消しておく）。 ◇リハーサル（内的記憶方略）やメモを取る（外的記憶方略）が記憶を定着させるのに有効なことを説明する。
終末 5分	○記憶力をテストする ○まとめ	◇忘却曲線のパーセンテージを利用し、短時間で多くの記憶が失われることを実感させる。 ◇記憶を定着させるためには復習が大切な

		ことを伝える。
--	--	---------

参考文献

北尾倫彦・小石寛文・近藤淑子・馬場園陽一・遠藤由美・豊田弘司・島田恭仁 1993
『発達・学習・教育 新しい教育心理学』 養正社